



月刊 織本

GEKKAN ORIMOTO

4

2015年4月1日 Vol.248

発行 医療法人財団 織本病院

印刷 〒204-0002

東京都清瀬市旭が丘 1-261

TEL 042-491-2121

URL <http://www.orimoto.or.jp/>

発行人 高木 由利



辛夷 (コブシ)

あの戦争を伝えたい (2)

理事長・院長 高木 由利



日本の美しい桜並木は世界に誇る景観だと思えます。私の通勤路も梅園から桜並木に変わり、私の心を楽しませてくれます。

* * *

ある晩、役者をしている次男が坊主頭で私の前に現れました。俳優座で“俺は君のためにこそ死に行く”という特攻隊の舞台に出るための準備なのです。特攻隊の青年達は正に今の息子の世代なので、役造りのためとは言え、彼の姿を見て私は何故か複雑な気持ちが過ぎました。

あの時代、多くの女性達は日本の政治家や軍隊に対し強い怒りと身を裂かれるような悲しみをもって、お国のためと称される見送りをしたに違いありません。“笑顔でいってらっしゃい”などと私は言えません。特攻隊を志願し海に消えていった命は 4000 人と言われています。この青年達は、知性、知力、忍耐力、強靱な肉体など、男性に必要な全てを兼ね備えた正に日本の将来を支える重要な男性達と聞いています。そして、特攻はゼロ戦だけではなく、人間魚雷“回天”もある訳ですから、死ぬために出陣していった青年達は一体何万人いたのかと考えてしまいます。

回天特攻搭乗員の 21 才の青年の手帳には、「俺ノ

死ト云ウコトハ、俺自身ヨリモ

俺ノ両親就中母親ニ関係ガアル。俺自身ニハ無関係ダ」と激しく揺れる胸の内を綴っています。そして奇跡的に生還された隊員は、「死にたくて死んだ特攻隊員は 1 人もいない — 彼らは自分のために死んだのではないのだから — 特攻隊員は悲惨に見えても特攻以外でしか戦う手段がない状態に陥れた国家指導の方が



無残 — この国が将来特攻隊が必要となる事態になってはならない」と。

“あの戦争を伝えたい”という本は、様々な角度から戦争の事実を^{えぐ}抉り出しています。生体解剖という形をとり、捕虜になった中国人とロシア人を生きたまま解剖しペストなどの生物兵器を作ったことを、自ら加害者として亡くなった方々の補償を巡る裁判の証言をする手記。シベリアや満州の捕虜時代の強制労働のこと、被害者も加害者も全てこの^{おぞ}ましい戦争が生み出した罪の犠牲者だと私は考えています。

人間は戦争を考えると一体どこまで理性のない残忍な生き物になるのか、本当に悲しく情けないことです。“こんなひどいことをするなんて人間じゃない。まるで野獣みたいだ。”という言葉が耳にしますが、動物は生きていくための掟に従っているだけで、それを破る無知なことはしません。人間だけが世の中の状況に左右され罪を犯すのではないのでしょうか。

私達は絶対に戦争を阻止しなければいけません。私は知りませんでした、戦犯として処刑されたのは現場の士官や下士官ばかりだったのです。「本当の戦争責任を負うべき者は別にいた」という告白を重く受け止めるべきではないですか。更に戦後、軍の中樞にいた者たちが次々と公職復帰し、責任をうやむやにしてきた事実、その延長線上に今の社会があるように思うとこの本は語っています。

口を閉ざしていた戦争体験者の皆様を支えて、戦争反対を叫び続けていきたいと私は願っています。



日本腎臓リハビリテーション学会

理学療法士 吉良 大輝



3月21日・22日の2日間にかけて、日本腎臓リハビリテーション学会学術集会に参加してきました。

正直、今回この学会に参加するまで、私は「腎臓リハビリテーション」についてよく知りませんでした。



「腎臓リハビリテーション」とは、透析患者様を含む慢性腎不全（CKD）患者様の身体機能障害と内部障害を対象として、運動療法のみならず食事・薬物療法や介護・精神的ケアなどを包括的に行う新しい概念とのことです。

たくさんの著名な先生方の講演を聞いて、新しい知識や問題の捉え方、様々な考えを知り自分自身の視野の狭さや力不足を痛感しました。

1番驚いたことは、多くの病院や施設が腎不全という1つの疾患に対して、様々な角度から研究し報告を上げていることです。腎不全で運動している人と、していない人の寿命の長さは大きく異なり、運動に対する耐久性、血圧、貧血、肥満、糖尿病などの生活習慣病には改善がみられています。

また、講演された先生の「腎不全患者様に過度な安静は弊害である」という言葉がとても印象的でした。

過度な運動は腎臓への負担が強く原則禁止ですが、適度な運動は生活の質を向上させることに繋がります。

リハビリに関連した様々なポスターの閲覧や講演を見聞きすることで、腎疾患を多角的な視点で見ることの大切さを学ぶことができました。今後は私も一人ひとりの患者様に対して視野を広く持ち、積極的に他部署との情報交換を図り、協力して患者様に適したゴー

ルを選択できるようになりたいと思います。自らがパイプになることで、患者様がより良い退院後の生活を過ごせるように尽くしていきます。

私も織本病院に勤務して半年になります。まだまだ学ぶことも多く、これから更に勉学に励むことで、このような学会で講演できるようになりたいと思っています。

長引く咳にご用心!!



内科・糖尿病外来

佐藤 潤一

さとう じゅんいち

痛み、嘔吐、失神なども伴うことがあります。

なお、咳喘息は気管支喘息のよ
うにヒューヒュー・ゼイゼイとい
う症状、呼吸困難、痰や発熱など
はほとんどありません。

咳喘息は気管支喘息の前段階と

咳はほこり、煙、ウイルスなどの異物が喉に入ってきたり、喉にたまった痰を吐き出す生体防御反応です。

咳を起こす原因はいろいろありますが、最近注目されているのが所謂「咳喘息」と呼ばれる慢性的に咳が続く呼吸器の病気で、

咳喘息は室内外の大きな温度差、ほこり、ダニなどのハウスダスト、タバコの煙(受動喫煙)、アルコール、運動、さらには各種のストレスが発作の要因となり、年々患者の数が増加しています。咳喘息は花粉症などアレルギー体質の人に多いと言われています。さらに風邪などの呼吸器疾患に引き続いて発症することも少なくありません。そのため、風邪をひいた後などに2〜3週間もコンコンといった咳(空咳)が続く場合は咳喘息が疑われます。

咳喘息は、夜中から早朝に激しい咳がでること、気温の大きな変化、受動喫煙などが刺激となり発作的に咳がでることが特徴的です。ひどい場合は胸の

考えられており、放置するとおよそ30%が気管支喘息になるとの報告があります。そのため咳喘息が疑われる場合は、呼吸器内科や耳鼻咽喉科を受診し、血液、喀痰、レントゲンなどの検査を受けることが大切です。その結果、咳喘息と診断された場合は気管支を広げ空気の入りを良くする薬(気管支拡張薬)やステロイドと言われる薬を吸入や内服して治療を行います。これらの薬剤療法は症状がなくなっても数か月続けることが大切です。

また、睡眠不足、ストレスをためない、過度なアルコールを避け、バランスの良い食事をする、気温の差を大きくしないなどの日常生活の注意も必要です。さらに室内の清掃を行いアレルギーの原因となるハウスダスト、花粉、ダニなどを取り除くことも重要です。

なお、長引く咳は咳喘息以外にも肺結核、慢性閉塞性肺疾患(COPD)、逆流性食道炎など種々の病気の可能性があります。そのため、原因不明の咳が2週間以上続く場合は医療機関を受診する様にしましょう。



ザ・ショクインズ 春うらら コンサート

さくら (森山 直太郎)
あの素晴らしい愛をもう一度 (加藤 和彦と北山 修)
カントリーロード (ジョン・デンバー)
22才の別れ (かぐや姫)
翼をください (赤い鳥)
海岸通り (伊勢 正三)
学生街の喫茶店 (ガロ)
他

2015年
4月11日(土)
15:00 開場 15:30 開演
織本病院 2F ロビー
入場無料

第165回 腎疾患ゼミナール

腎不全の理解を深めましょう ③

腎臓内科：高木 由利

栄養科からのフンポイントアドバイス

『でんぷんパンミックスで
アレンジパンを作ろう!!』

管理栄養士：山崎 紗也加

レシピ
試食付き

2015年 4月23日(木)

午後1:00～2:00

オリモトホール (織本病院 4F)

参加費無料



糖尿病教室のご案内

テーマ

『ためになる糖尿病のはなし』

講師：内科・糖尿病外来担当 佐藤 潤一

2015年 4月11日(土)

午後1:00～1:30

第1会議室 (織本病院 4F)

参加費無料

予約不要 (直接会場へお越しください)

